

(別紙様式)

(A3判横)

令和2年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校 全日制)

目指す学校像	新しい時代を切り拓く たくましく 創造性豊かな実践的技術者を育成する
--------	------------------------------------

重点目標	1 専門教育の深化と学力の向上を図り 第一志望の進路を実現する力を育てる 2 自主性・主体性を高め より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる 3 地域等との連携を深めるとともに 積極的な情報公開に取り組む
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	12名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	18名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
					年度評価(1月30日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ・生徒はやさしく穏やかであり、授業も円滑に行われている。 ・大学進学者が増加傾向にある。 【課題】 ・専門教育を深化させ生徒の学習意欲をさらに高めるとともに、確かな職業観を育成する。 ・学習評価の工夫改善に取り組む ・大学進学をはじめ、さらなる学びに対する生徒の高い志を育成する。 ・学科の垣根を越えて生徒が互いに刺激し合い学びあう機会をより多く提供する。	○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ○学習評価の工夫改善 ○進路実現100%に向けた進路指導	①ICTの適切な活用による授業改善及び授業公開の実施 ②主体的・対話的で深い学びの視点による授業実施 ③各学年における段階的進路指導の実施	①ICTの活用状況と教科としてのデータの蓄積 ②新学習指導要領における、三観点評価の実施状況 ③生徒の進路意識の向上と進路実現に向けての取り組み状況	○コロナ禍の中でも、継続的な取り組みを通して、生徒の自主性・主体性が出ている。 ①生徒の授業アンケートでは、65%の生徒が「わかりやすい」と回答しており、昨年度より7ポイント減少した。 ②ICTを利用した授業改善を教務部が中心になり行った。数学科においては動画を配信する等、積極的に活用をしている。 ③県指定の「未来の職業人材育成事業」を実施し、より専門教科の深化が図られた。 ④各学年で、Google Classroom や宅配便を活用し、教材を配布し、基礎学力の向上につなげた。進路指導部では、計画的・系統的に3年間を見据えた進路説明会を計画実施できた。今年は、第1希望企業への内定率が91%と昨年より2ポイント減少した。	b	①ICTを活用した授業が多くなっている。今後も教務部を中心に、引続き授業研究に取り組む。 ②県の事業を積極的に活用し、地域や企業等との連携を更に推進するとともに、工業高校の特色を生かした教育につなげていく。 ③新学習指導要領における、三観点評価の実施に向け、講師を招いて研究会を行った。今後、各教科・学科で検討し来年度へつなげていく。 ④進路意識を早期に持たせることにより、希望通りの進路実現を目指す。そのためにも、色々な場面で基礎学力の向上へつなげたい。
2	【現状】 ・継続的な生徒指導の効果が出ており、挨拶・身だしなみ・清掃など、生徒の基本的な生活習慣は良好である。 ・部活動や生徒会活動などが、自主的・主体的に行われている。 【課題】 ・生徒一人一人が高校生活に充実感を持ち、さらなる高みを目指して努力をさせる。 ・部活動や生徒会活動など生徒主体の活動を支援するとともに、学校全体の一体感を醸成し、さらに自校に誇りを持たせる。	○生徒の心身の成長と規範意識の向上 ○部活動・生徒会活動のさらなる活性化 ○資格取得やコンテスト等への挑戦	①日常の組織的な登校指導や声かけ運動、身だしなみ指導等を実施する。 ②部活動や生徒会活動、地域交流・ボランティア等を通して、生徒の多様な経験を支援するとともに、何事にも諦めず挑戦し続ける精神を育成する。 ③志を高め、確かな職業意識を確立させるための講演や特別講義を実施する。	①生徒の挨拶、身だしなみ、清掃など、基本的な生活習慣の状況 ②学校行事・部活動・生徒会活動の取り組み状況や地域交流・ボランティア活動への参加状況 ③外部講師等の活用状況及び資格取得やコンテスト等への取組状況	○コロナ禍の中、継続的な活動の効果が出ている。 ①感染予防の観点から、教員と保護者の協力のもと、あいさつ運動や声かけ運動が行われた。元気に挨拶をするの生徒が多く駐輪マナーもよい。生徒の挨拶や身だしなみは良好である。 ②コロナ禍の中、学校行事や部活動は、ほぼ中止となった。 ③難関国家資格の「危険物取扱者甲種」に合格。「第1種電気工事士」に合格者を出す等、より高い目標に果敢にチャレンジする生徒が増えた。	b	①1年次からの学年全体での継続的な生徒指導が実を結び、学年が進むごとに、あいさつや身だしなみはほとんどの生徒が大変良好であるが、まだまだ、学校全体で生徒を見守る体制を更に強化するとともに、心のこもったあいさつや遅刻者の減少に結び付ける。 ②コロナ禍の中でも、学校行事や部活動・生徒会活動に対する保護者の理解の下、生徒がのびのびと活動できるよう、安全・安心な環境の提供に努める。 ③「ホンモノ」に触れる機会を大切にし、生徒の感受性・可能性やより高い目標を持たせるために、専門家や技術者などの外部講師を招へいする。
3	【現状】 ・日々の教育活動をホームページ等により情報発信している。 ・地域と連携した教育活動が行われている。 【課題】 ・「社会に開かれた教育課程」の実現に向け取り組む。 ・更新されていないページが見受けられる。	○ホームページ等による積極的な情報発信 ○社会との連携による教育活動	①ホームページや広報紙等を活用し、日々の教育活動を積極的に発信する。 ②保護者や中学生のニーズに沿った、きめ細やかな情報提供を行う。 ③社会と連携した事業を積極的に実施する。	①ホームページの更新状況 ②保護者アンケートによる学校への満足度 ③社会と連携した取り組みの状況	○学校ホームページや様々なメディアを活用し、積極的な情報発信の効果が出てきている。 ①積極的に更新するよう情報発信に努めた。 ②各学年の学年だよりや保健室だより、長期休業前の生徒指導部からのお知らせを発行している。保護者アンケートでは、95%の保護者から「川越工業高校に入学して、充実している」と回答している。 ③コロナ禍の中、丸広百貨店との連携「こども工作体験教室」をはじめ、かわごえ産業フェスタ(川越市主催)・ミニかわごえ(商工会主催)等、地域や企業との連携が中止になった。	b	①ホームページ委員会を組織し、ホームページの更新が、誰もが更新できるように改善に取り組む。 ②コロナ禍の中でも、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、工業高校の特色を生かした地域連携に取り組む。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和3年3月1日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
①生徒の授業への取り組み姿勢アンケートでは、8割の生徒が意欲的に取り組んでいることがわかる。先生方の丁寧な指導が、生徒の学習への意欲を高めているものと思われる。	②教務部が推進しているICTを利用した授業改善については、教職員で共有しながら一層の推進を図っていただければ幸いです。
③新学習指導要領導入に備え、新たな資質・能力の育成のためのカリキュラムマネジメントの再構造化に大きな期待を寄せています。	④Google Classroom や宅配便を活用した教材配布等は、コロナ禍における学習保障に大きく役立ったと思います。
①登校指導に立ち合い、あいさつ、身だしなみは生徒によってまちまちであると感じた。昨今の個人主義意識の高まりもあると思いますが、あいさつは大事なことと考えます。皆が気持ちの良いあいさつ習慣が定着することを願っています。	②コロナ禍の中、学校行事等が中止になり生徒もモチベーションが下がってしまうのではと心配でしたが、時間をより有効に活用し目標を高くかけ資格取得に取り組む、合格している生徒の様子に安心しました。
③難関国家資格に合格者を出していることは、生徒に高い目標に向かって努力すること、チャレンジすることを日々の学校生活で指導しているからこそと思います各専門科目の充実とともに志や職業意識の向上に向け、今後も指導していただきたい。	
①ホームページはトピックスも多く、見る側にとっても興味深いものが多いと思います。委員会を作るという事で、楽しみにしています。	②保護者アンケートにて、「高校生活全般について」「入学してどのように感じていますか」の質問に90%の肯定的な回答をしています。この数字は極めて高く、学校への信頼度を映し出しているものと考えます。